

第25回神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」は解答者38名。第19回(43名)に次ぐ

盛況に大感激です。

①ばか詰 5手

神無七郎

6	5	4	3	2	1	
			麩	香		一
			王			二
	銀	歩				三
	銀	角	桂			四
			香			五
			王			六
						七
					香	八
					香	九

持駒 なし

23 桂生、36 飛生、43 歩生、

55 角生、42 銀生迄5手。

井上道宣―解いて吹き出した。

砂川順一―連続生が狙いです

ね。

高橋達也―うわあ、ナラズば

っかり!

☆解説不要の5手5種不成。

第7回九州G別館の課題

(不成三種以上)に触発さ

れて作ったもので、この作

のみの解答が26名という

今回の稼ぎ頭となりました。

佐藤宣多―あと香ですか。

☆受方から始めて6手6種不

成は可能でしょうか? ど

なたか挑戦してください。

土沢芳信―特に4手目55角

生は、角を取ると同時に香

筋を通すという、いわば1

手で2手分(正しくはな

い?)のスゴイ手だと思

ます。

☆本作で一番苦労したのが、

この仕組みの発見でした。

神無三郎氏もこの構造に着

目し『開王手をする軸駒を

を封鎖している駒を動かす

(又は利きを遮る)』という

手筋を「飯綱落とし」と命

名しています。いずれ三郎

氏自身の作品でその応用例

が見られるかもしれません。

☆最後に、夏の不成作品では

「お約束」のこの短評で締

めましょう。では、どうぞ。

山口勇―夏はやっぱり生です

ね。オール生。

神無三郎

②ばか詰 59手「胡蝶」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀	銀	銀		四
				金	桂	香	香	歩	五
			歩	王	歩			角	六
			金	桂					七
		金	香	香	王	桂	歩	争	八
		金	香	香	王	桂	角	争	九

持駒、歩9

26 桂、38 歩、同角引、46 玉

47 歩、36 玉、27 角、37 玉、

38 歩、47 玉、36 角、56 玉、

47 角、同玉、48 歩、56 玉、

37 歩、47 角、57 歩、46 玉、

47 歩、57 玉、48 角、56 玉、

46 歩、同玉、57 角、37 玉、

38 歩、26 玉、48 角、37 桂、

同角、17 玉、26 角、同玉、

27 歩、36 玉、37 歩、同玉、

38 歩、47 玉、48 歩、56 玉、

37 歩、47 角、57 歩、46 玉、

47 歩、37 玉、38 歩、36 玉、

48 桂、47 玉、37 歩、46 玉、

47 歩、57 玉、46 角迄59手。

作者―角(軸駒)と歩による

歩以外の駒稼ぎをコンパクト

にまとめたもの。ひらひ

らと玉が左右に舞うところ

が、菜の花を求め、胡蝶に

ふさわしい。手数が短い割

に手順がゆらゆらしている

のは、臙蜜に酔っているの
 だろう。春の情景。

☆詩的な命名とはうらはらに、
 かなり解答者を苦しめた難

解作。苦勞の跡を窺わせる
 短評が集まりました

たくぼん―角を取らず手とい
 うのが何故か見え難い。狭

い中でのやり取りですが考
 えどころは多く一筋縄では

いかない。
 小峰耕希―一步不足を解消す

る中盤の手順が緻密。
 ☆持駒に角桂歩があれば詰む

初形。歩はたっぷりと持つ
 ているので、それを駆使し

て角桂を手に入れます。具
 体的には、盤上の角を消し

合駒で角を入手、その角で
 桂を消し、合駒で桂を入手、

その後再度角を入手すると
 いう手順になります。

☆こう書くと易しそうに見え

ますが、その手順は多くの
 紛れを含み、簡単には最短

順に辿りつけません。
 某氏―合っていると思う

が・ギブアップ。角の渡
 し方の間違いか、桂の渡し

方か。
 ☆右の解答は33手目を27歩

とした61手解でした。もし
 17の地点が埋まってい

れば、それが最短順になるの
 で、かなりきわどい紛れで

す。また、1歩多く使って
 55手詰とした解答もあり

ました。非限定を一切含ま
 ないため、作意に近いと誤

認しやす厄介な紛れです。
 ☆では、こういう作品を解く

のにはどんなコツがあるの
 でしょうか。全題正解者の

お一人に聞いてみましょう。

今川健一―とりあえず、26桂

跳。後は根気、角桂歩での
 最終図捜し。これが、暇な

私の解図方法です。
 ☆やはり、解図はひたすら考

えることが基本のようです。
 ③ばか詰 75手

荻絵香木

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	皇	香	銀	銀	王	皇	香	王	一
		銀			王			香	二
			香		皇	香			三
			香	銀	皇	香			四
				香	皇	香			五
					皇	香			六
						皇			七
							皇		八
馬				と	と	と	桂		九

持駒 歩

32王、88歩、同馬、77歩、

同馬、66と、同馬、55歩、

同馬、44歩、同馬、33圭、

同馬、22歩、23桂、同金、

12歩、同玉、13歩、同玉、

14歩、同玉、15歩、同玉、

16歩、同玉、17歩、27玉、

28と、同玉、39と、同玉、

49と、29玉、39と、19玉、

29と、同桂成、84銀成、82歩

同馬、73香、同馬、64桂

同馬、55歩、同馬左、46歩、

同馬、37歩、同馬、28圭

同馬、同玉、29香、37玉、

49桂、47玉、39桂、58玉、

59歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、87玉、88歩、86玉、

87歩、75玉、85全、65玉、

57桂、76玉、86全迄75手。

弘光弘―2度の7連合いがす

ばらしい。

市村道生―×の連続合は見事

な趣向。67歩がMVP。

☆現在は九州G別館で活躍さ

れている荻絵氏。新人なが

ら、一作毎にめきめきと腕

を上げ、いまや目を離せな

く苦戦した。

小峰耕希—短編ながら今回の最難問。詰上りは1つだがと金は取らせ駒と思った。

☆本作は、アンチキルケ特有の効果が高密度に盛り込まれており、よく練り上げた手順が自然な難解性を生んでいます。また、駒取りが難しいというアンチキルケの特徴も、難度を上げる要因となつているかもしれませぬ。特に、復活した駒で王手を掛けられない場合には、王手を掛けるための飛び駒を別に用意して、駒をかすめ取らねばなりません（本局では3手目と9手目）。この独特の感覚に最初はとまどうと思いますが、慣れると病みつきになる魅力も持っています。

⑤アンチキルケばか自殺詰 230手
神無七郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			馬	王				金
			馬	馬			馬	
							馬	馬
				王		歩		

持駒 桂歩 16

- 63 桂、41 玉、51 桂成、31 玉
- 21 金、32 玉、31 金、同玉、
- 41 圭、21 玉、31 圭、11 玉、
- 21 圭、12 玉、11 圭、13 玉、
- 12 圭、23 玉、13 圭、32 玉、
- 23 圭、41 玉、「42 歩、31 玉、
- 41 歩成、21 玉、31 と、
- 同角左／22 角、12 圭、31 玉、
- 21 圭、41 玉、31 圭、
- 同角左／22 角、42 歩、31 玉、

41 歩成、21 玉、31 と、11 玉

- 21 と、12 玉、11 と、13 玉、
- 12 と、23 玉、13 と、32 玉、
- 23 と、41 玉、「×7（2回
- 目以降は「圭」の代わりに
- 「と」42 歩、31 玉、41 歩成
- 21 玉、31 と、同角左／22 角、
- 12 と、31 玉、21 と、41 玉、
- 42 歩、同角迄 230 手。

☆本作は22角の「居食い」に

よって持駒消去を行う作です。中将棋などでは獅子のように、特定の駒が「居食い」をすることがありますが、アンチキルケではすべての駒に「居食い」の可能性があるのです。

小峰耕希—最初約40手オー

バーで慌てる。1サイクル2枚消去がポイントだった。☆出題時には「易しい」と書いたのですが、1サイクル

2枚消去にしたのが疑問手。

素直に1サイクル1枚消去にして、アンチキルケ入門に徹するべきでした。

☆無解はともかく誤解はないと思われた本作。九部九厘合つていながら、歩の枚数を誤ったためか、最終2手を「31と、同角右」とした誤答が一つありました。

惜しい！

⑥ばか詰 180手

森茂

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				金	銀			馬
				銀	歩	角	争	
			桂		桂		桂	
馬	馬	馬	馬	馬	王			龍
								王
								馬
								馬
								香

持駒 歩

☆今回のトリを飾る森茂氏の

大作。途中簡単な説明を交えながら手順を並べていきましよう。まずは序奏から。

15 龍、34 玉、14 龍、35 玉、
36 歩、同し香 15 龍 34 玉
14 龍、45 玉、48 香、47 と香
同香、46 と、15 龍、34 玉、
14 龍、35 玉、36 歩、45 玉、
15 龍、35 歩、46 香、34 玉、
35 歩、33 玉、34 歩、42 玉、
33 歩成、同玉、34 歩、同玉、
14 龍、35 玉、36 歩、46 玉

(途中図1 36手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	銀			皇	一
				銀		角	争		二
			桂		桂		桂		三
爵	爵	争		争	争			龍	四
		イ	争	皇	争				五
		イ	争	王	王	歩		王	六
		歩	歩					皇	七
		イ	イ	イ	イ	皇		皇	八
									九

持駒 歩

☆ここから歩を香に変換し、

香を歩2枚に変換することによって、歩を1枚増やす「A」手順を2回行います。

「47 歩、45 玉、15 龍、35 香」
46 歩、34 玉、35 歩、33 玉、
34 歩、42 玉、33 歩成、同玉
37 香、36 歩、同香、35 歩、
同香、34 歩、同香、同玉、
14 龍、35 玉、36 歩、46 玉、」
(||「A」) A

☆次に歩を香に変換する「B」

手順を行います。

「47 歩、45 玉、15 龍、35 香」
46 歩、34 玉、35 歩、33 玉、
34 歩、同玉、14 龍、35 玉、
36 歩、46 玉」(||「B」)

☆ここから8段目のと金をは

がします。以後、1枚と金をはがしては、右辺に戻って持駒を補充するパターンを繰り返します。

①49 香、48 と、47 歩、同と、

同香、同玉、48 歩、46 玉、
A×3 B 47 歩、57 玉、
59 香、58 と、同香、同玉、
59 歩、47 玉、48 歩、46 玉、

☆78、88の2枚のと金はず
ときには、その右側の歩を
必要なだけ下げておく事前
準備が必要になります。こ
れは「寿限無」と似た構造
ですが、状況に応じ歩の下
げ方は変化します。

A×3 47 歩、57 玉、
58 歩、67 玉、68 歩、58 玉、
59 歩、47 玉、48 歩、46 玉、
A×3 47 歩、57 玉、
58 歩、68 玉、69 歩、58 玉、
59 歩、47 玉、48 歩、46 玉、
A×3 B 47 歩、57 玉、
58 歩、67 玉、68 歩、同と、
同歩、58 玉、59 歩、47 玉、
48 歩、46 玉、

A×4 47 歩、57 玉、

58 歩、68 玉、69 歩、77 玉、
78 歩、67 玉、68 歩、58 玉、
59 歩、47 玉、48 歩、46 玉、
A×4 47 歩、57 玉、

58 歩、68 玉、69 歩、78 玉、
79 歩、67 玉、68 歩、58 玉、
59 歩、47 玉、48 歩、46 玉、
A×4 B 47 歩、57 玉、
58 歩、68 玉、69 歩、77 玉、
78 香、同と、同歩、67 玉、
68 歩、58 玉、59 歩、47 玉、
48 歩、46 玉、

(途中図2 810手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	銀			皇	一
				銀		角	争		二
			桂		桂		桂		三
爵	爵	争		争	争			龍	四
		イ	争	と	争	王	歩	王	五
		イ	争	王	王	歩		皇	六
		歩						皇	七
		歩	歩	歩	歩	皇		皇	八
				歩					九

持駒 なし

☆ 8段目のと金をすべてはが

した後、5・6段目の駒をはがしていきます。はがす

順番は86と↓75と↓76歩
↓65金です。

A×5 47歩、57玉、

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、87玉、88歩、77玉、

78歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×5 47歩、57玉

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、88玉、89歩、77玉、

78歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×5 B 47歩、57玉、

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、87玉、88歩、96玉、

99香、98歩、同香、97と、

同香、同玉、98歩、86玉、

87歩、77玉、78歩、67玉、

68歩、58玉、59歩、47玉、

48歩、46玉、

A×5 47歩、57玉、

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、87玉、88歩、77玉、

78歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×5 47歩、57玉、

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、88玉、89歩、77玉、

78歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×5 B 47歩、57玉

58歩、68玉、69歩、78玉、

79歩、87玉、88歩、96玉、

97歩、85玉、87香、86と、

同香、同玉、87歩、77玉、

78歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×6 B 47歩、57玉、

58歩、68玉、69歩、78玉、

79香、87玉、88歩、86玉、

87歩、75玉、76香、同玉、

77歩、67玉、68歩、58玉、

59歩、47玉、48歩、46玉、

A×3 47歩、45玉、

15龍、35香、46歩、34玉、

35歩、33玉、34歩、同玉、

14龍、35玉②、15龍、46玉、

47歩、57玉、58歩、68玉、

69歩、77玉、78歩、76玉、

77歩、75玉、76香、同金、

同歩、85玉、86金迄1965手。

(詰上り)

										1
				金	銀					二
				銀		角	争			三
			桂		桂		桂			四
駒	駒	香		香	争					五
	王			争					龍	六
	金	歩	手	争					王	七
歩	歩			歩					争	八
				歩		争			争	九
			歩							

持駒 歩

たくぼん―歩増幅機構以外の

部分は手なりで進むとはい

え、小さな考えどころが結構あり、楽しめました。作者には感謝です。

浜崎歩―苦闘○日、なんとか

詰めたときには思わずガツ

ツポーズが出ましたが、手数

数を勘定してガツクリ。その

の後、運よく49香、48と、

47歩の順や、最後の15竜等

を見つけ、どうにか表示手

数の解にたどりつきました。

巧妙にして明快、緻密にし

て重厚の森ワールド、まさに

に円熟の傑作。

作者―龍の助けを借り歩二枚

消費して香を入手、その香

を歩三枚に変えることによ

り、24手サイクルで持駒歩

の増幅を行う。最終回以外

は最大限香歩を持駒にして

から「と金」のはがし、ま

たは最大限歩を持駒にして

から歩の一段下げを行う。

☆「龍の顎」では桂を媒介と

した持駒増幅で、巨大かつ

精密な高度なバズルを見せ

てくれた森氏。本作でも香

を媒介とした持駒増幅に

「はがし」を組み合わせて、

ばか詰の醍醐味を味わえる

手順を堪能させてくれます。

☆従来、香を利用した持駒増

幅は、香で香合いを稼ぐ方

式だったため、非限定がっ

きものでした。本局では龍

で香合いを稼ぐ2段階式の

変換を用いているため、非

限定が消えています。

☆更に、持駒に香があること

により、歩の操作だけにな

く、「はがし」という要素を

加えることが可能になって

います。香や桂を伴った持

を秘めており、今後の研究

が期待される分野です。

駒井信久―意外とスツキリし

た構造で解きやすかった。

何度も資金を稼いでは埋蔵

金を掘りに行く。そしてつ

いに……そんなストーリー

が見えて楽しい。

小峰耕希―手数割に難所無

し。歩の枚数が実に良く管

理されている。

☆手数が手数なので解く前に

怯んだ方も多かったと思

いますが、解いてみると意外

と易しかったと思います。

ただし、大きな落とし穴が

2箇所あります。一つは①

99手目の49香。ここを先に

47歩としてしまうと、2手

長くなってしまいます。も

う一つは②1949手目の15龍。

最終盤なので、この手で1

歩を節約できるのです。こ

れらの紛れは、自然にでき

た陥穽ですが、超長編だけ

に、これに落ちてしまうと

正解を捜すのは大変です。

☆創る立場から見ると、特に感

心するのは終盤の5・6段

目のはがしです。ここでは、

使える歩の枚数が増えるた

め、非限定を生じさせずに、

4枚もの駒をはがすのは至

難の技です。作者は「fm

に大いに援けられました」

と仰っていますが、積み重

ねられた経験と、確かな技

量があるからこそ、これが

☆作者自身も「会心作」と自

負するこの作品は、森氏の

傑作群の中でも、代表作の

一つに位置づけられること

でしょう。最後にこの短評

で締め括って戴きます。

市村道生―香と歩が盤面で躍

動。堂々とした構成に妙技

も混在する。名作。

〔解答成績〕(太字5名当選)

【全題正解】小峰耕希、

林泰伸、駒井信久、今川健一、

たくぼん、市村道生

【4題】小五郎

【2題】天津包子、弘光弘、

佐藤宣多、佐々木寛次郎、

【1題】川並洋太、伊東史郎、

林八江子、ほの字、八尋久晴、

原岡望、山本和男、安原嗣治、

和田登、中沢照夫、岡田至弘、

山口勇、土沢芳信、滝本幹夫、

千葉肇、高橋達也、砂川順一、

Sub、佐藤司、河原林隆彦、

佐藤善起、坂本竜雄、大野孝、

浜崎歩、片桐正二、江口昌司、